

---

=== 日程第4 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第4、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、1番、小池昌人君、4番、宮嶋怡正君、2番、串原寛治君、3番、金田憲治君、以上5名から通告されております。

---

宮 嶋 清 伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

現在の下條村は、各多くのマスコミに取り上げられ、視察も多く来村されております。1月21日には、日経子育て支援大賞の受賞、このたびはベストファーザー賞の受賞通知が伊藤村長に来るなど、異常なまでに全国的に有名になり、注目されております。住民や我々自身が認識しないところで動いている感が見えます。

そこで今回私は、真に魅力ある、住んで良かった下條村と住民誰もが思える村にするための施策を提案して、村長のお考えをお聞きするものです。

まず第一に今年7月に任期となる村長選ですけれど、4期16年の実績は誰もが認めるところです。今後道州制を踏まえ、あらゆる面から考え、この下條村のかじ取りができるのは伊藤村長以外には考えられません。そして長野県町村会長にも就任していただき、南北格差を解消し、暫定税率がいまだどうなるか分かりませんが、希望の持てる飯伊地区にするためにもぜひ出馬していただきたいと思います。その決意をお聞かせ願いたいと思います。

この件につきましては、この後金田議員からも関連質問がありますので、決意はその時にお聞かせいただくとして、まず5選出馬の意思があるかどうか。また、出馬の表明はいつごろになるかということをお聞きしたいと思います。今日この場で出馬表明となるかどうかということも合わせてお願いします。

続きまして、今後の重点施策について4つお聞きします。

まず、住宅開発の促進についてですけれど、下條村は若者定住策として第10メゾンまで建設により、毎年若者が増えておりますが、今後は第11メゾンを建設するのではなく、住民の皆さんに下條村に家を建ててもらい、真の人口増策をとるべきだと私は考えます。

しかし、現在の情勢下では、住宅、宅地を買い、新築を決意するにはとても勇気が必要となります。他町村では、住宅支援金施策により成果を上げている自治体もあります。下條村としても住宅支援策として、住宅建築や宅地購入に補助金を出したりローンの利子補給するなどの施策をとることが必要だと私は思いますが、村長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、中学生の学力向上についてですけれど、私は下條村に魅力を感じ住みたくなる、そんな施策として増加傾向の子供の教育に視点を当てるべきだと考えます。今検討中の信大工学部の教授の開発したソフトの導入や、善通寺市のような塾の講師に生徒の個々のレベルにあった教育を全生徒に授業以外に行い、学力向上をして子育て支援の村プラス秀才村としていくことが必要だと私は考えます。

また、今年より中学校は生徒数減により、今後2年間は4クラス、その後5クラス6クラスと戻ってはきますが、村単で臨時の職員を増員して6クラスにしていく施策が必要だと思いますが、村長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、保育所の新築移転についてです。

下條村は子育てに対して先進的な取り組みをしており、園児数も増加傾向にあり、昨年も増築しましたが、まだまだ十分とはいえません。また、十分な駐車場のスペースが確保されておりません。私は、いきいきランド横の広大なスペースに芝つきのグラウンドの保育所を新築したらと考えております。が、村長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

最後になりますが、現在の施策のPRについてということで、住民の多くからは「マスコミに取り上げるたびに子育て世代にはいい村だが、自分たちには実感がない」とよく言われます。それは今の現状の施策にまひしており、個々にお話をしてこんなものがあるよというようなことをすると納得していただけますが、今一度住民の方への大々的な村の施策を示し、ご理解をいただいでいくことが大切だと私は思いますが、村長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

まず最初に村長選に出馬のお話、するのかもしれないのか、するんならいつだかというお話

がございました。

最後に金田議員からも一つあるから、その時に答えろということでございますけれども、私は今議会で、今議会の場で金田議員の質問の後答えさせていただくように今心を決めておるところでございます。

さて次の質問の答弁に移りますけれども、宅地開発の促進ということで、今もう集合住宅は限界あるだろうと。だから定住策として定住してもらうために宅地開発をすべきだと。これは当然でございます。私どもも一生懸命そのために多くの若者に下條村に参入して生活してもらって、そして下條村の良さを分かってもらって、それから定着してもらうという手順を踏んでおるわけでございます。

これも定着率も30%くらいでございます、あまりということでございますけれども、何もしなければ人口は減っていくという中で、30%の定着率があるということは、私は高い評価をしなければいけないと思っております。

さて、その住宅関係でございますけれども、平成10年にご承知のように40区画の売り出しをいたしました。中原団地でございます。これも地元の皆さんの大変なご協力いただいて、条件のいいところへ造らせていただいたわけでございます。これは本当にあっという間に売り切れたわけございまして、当時の時代的背景を考えると、まだまだ地域間格差もこんなに大きなく、そして需要が非常に多かった時代でございまして、今度大原地区に第2弾として15区画を造ったわけでございます。これはご承知のように地上げ、それから造成まで行政でやり、ある程度の適正な利潤をいただいて、まるまる業者の皆さんに販売したわけございまして、今業者の皆さんが一生懸命やっております。ところがなかなか売れ行きがまあまあ今一歩でございまして、7区画くらい今売れておるそうでございます。

この前も業者の皆さんもお招きして、いろいろの原因を探ってみました。私どもの判断するところでは、やはり行政が売っているんだよということになると一つのグレードが違ってくるのかなということ。

それから基本的には、非常に今景気が悪いということでございまして、その意味では徹底して皆が慎重になっておるのかなということと、私どもはちょっとうっかりしておったんですけれども、この地方は当然のこととして公共交通機関というのが皆無とっていい

だろうと思います。そのために交通弱者の輸送をどうするかという発想でございましたけれども、交通弱者の中に高校生というのを含まなかったわけでございます。潜在的には含んでおったか知りませんが、高校生の、これから高校になったときに通学をどうするかということが、世の皆さんの大きなネックになっておるわけございまして、朝晩一人かかりきりというような状況でございます。

そこで今回、信南交通も大変ご努力いただいたわけでございますけれども、今度そろそろ徹底したいなということの申し入れがありました。この前も阿南広域の中でもその検討があったわけでございますけれども、皆困った困った困ったということをおっしゃっていただきましたけれども、私はこれは千載一遇のチャンスであるというふうにとらえて、もう少しフレキシブルな大会社が定まった方向でやるのではなくて、本当に地域の需要にあった交通システムを作れば乗る人も多くなる。多くなればまたその面で、当然料金はある程度のものはもらうわけでございますので乗客も増える。そうすればまた新たな交通手段として充実する。ところが高校生というのはなかなかクラブ活動があったりいろいろして、問題があるわけでございますけれども、せめて朝今151号ものすごく良くなります。そうすると川路駅に行くなんていうことはすうっと行けるわけございまして、あそこを目掛けて高校生が一番乗る時期に、例えば阿南町から出発して、そしてそれを一発届けてそれから市営病院だとか村内を回るというのをどうしても設けなければいけないということで、これは阿南広域、それから南信州広域でも今これから本格的に取り組んでいくわけでございます。

そうした面で下條村は、高校生になっても通学には便利なんですよということを大いにPRをしていかなければいけない。

もう一つでございますけれども、私どもはこの村内の誘致企業、本当に頑張っておっていただきます。そして多くの若者が入ってくれるということでございまして、労働体質、まさに企業は人なりでございまして、この会社の体質も強くなってまいりました。

私どもも時々訪れるんですけれども、昔は定年を過ぎたような皆さんも厚いめがねをかけて頑張っておられましたけれど、今はぴちぴちした若者を中心に内容も変わってきたわけございまして、企業は人なり、まさにそれなりのこの厳しい中で成果を上げておるわけでございますけれども、そうした皆さんとさらに綿密な連絡を取り合って、そしてもし就労の場が不安だということになれば、なんとしてもそこの中で回転できるようにやって

いくつもりでございます。

今、阿智村をはじめ、阿智村が積極的にやっておるんですけれども、この公有財産、公的資産というのを個人財産の資産に振り向けるということ、これは非常に法律的にもちょっと首をかしげるということと、村民感情としても若干問題があるのかなということでございますので、それはそれとしてまたいろいろ考えるといたしましても、私どもはとにかく今言ったようなものを積極的に取り組みながら、また地元企業の皆さんの要望もさらに取り入れながらやっていくことがいいのか、第一段階としていいのかと思っております。

次に、中学生の学力向上でございますけれども、文部科学省の方でもやっとゆとり教育だなんてどうも効果の上がないようなことばかりやっておりましたけれども、それはそれなりの成果があったと思います。今年度より毎週金曜日に25分間の学力向上の時間と位置付けて基礎学力、特に漢字、計算力、単語力等の定着を図る時間を設けておるそうでございます。さらに漢字検定、数学検定、英語検定の受検を奨励し、中学生に励みを持たせるようにしておるといところでございます。また、読書の奨励で毎週月・火・木曜日の週3回、朝10分間の読書を行っております。

ここで問題は、家庭学習の習慣化を目標に国語、数学、英語については特に力を入れ、学習生活ノートの提出をさせておるといことでありまして、ドリルを配布し、その学習生活をやって、要するに宿題帳をまた復活させて頑張っておるそうでございます。

善通寺の善通寺市の話もありました。私どもも前の議員の皆さんは善通寺市行ってまさに驚愕の感を覚えたわけでございますけれども、善通寺市くらいの大きな規模になりますと私学、公立の学校これが入り乱れておりまして、公立の学校もたまたましておればみんな私立にいつてしまうという、いい意味でのこの切磋琢磨があるわけでございます。その中でさらにまたあの大胆な施策をやっておるといことは、私ども本当に感銘したわけでございます。次の世代を背負っていただくお子さんが、今までのような教育をしておっては駄目でございます、教育というのはやはりそんなに楽しいものではないわけでございます。反復基礎を訓練しながらその中でどうやってまた次のステップに行くかというのが、これが大原則でございます。

そんな意味で、私どもも終局的には善通寺市のような方向にもっていきたいなと思うんですけれども、今学校の先生方も一生懸命頑張っておっていただきます。一生懸命にも若

干の度合いはあるわけですが、とにかく一生懸命やっておっていただく。

そこで冒頭にも申し上げましたように、今度信州大学工学部と、この前も議員も情報を収集して一緒に行っていました。教授とも直接会って、そしてモデルケースのビデオも見せていただいて、これは相当基礎学習、そしてまた思考力のある効果が出るなどということを確認いたしました。当然学校側でも教育委員会側でも行っていただいて、懇談したわけですが、できるだけ早くそうしたものも取り入れていきたいと思っております。

当初予算にもれなかったということは非常に残念でございますけれども、時間的に間に合わなかったということでご理解いただきたいと思っております。

3番目に保育園の保育所の新設移転でございますけれども、ご承知のようにうれしい悲鳴でございます、造れば狭くなる、造れば狭くなる、造れば狭くなるということでございます、3度ほど増築工事を行いました。しかし、いまだにまだ狭いわけでございますけれども、出生率を見ますと平成10年生まれの児童が52名、その次に49名、51名、64名、36名、46名ということございまして、今現状では爆発的に園児が増えるという傾向にはないわけでございます。

それでまた、あの道路も付け替えるという方向もあるわけでございます。これまた地元と話を全然してないわけでございますけれども、そんな検討もするというので、どうせならいきいきランドの横ということございまして、あれは土捨て場ということございまして、過去に下條村の工事をやった場合は何でも木の、コンクリートの破片でも、木のほたでも、枯れ木でも、何でも放り込んでいいよと。その代わり表面だけは覆土をして農地にして返すというこの最初の契約でございます。

これは当時としては違法でもなんでもないことございまして、そんな場面ございまして、表面は非常にいいんですけども、中は相当なものが入っておるわけございまして、地盤安定作業ということになると非常にかかるわけでございます。

私どももあつた広々としたところはいいなということございまして、歴史を振り返ってみますと3園以前ありました。親田地域は水上家屋、それから睦沢地域も日陰のようなところ。陽阜の保育園も竹やぶの中にある大変なヤブ蚊学園でございましたけれども、それを一つにしてあそこへもっていったということ、これは精一杯の当時としてはやった

わけでございますけれども、それでもなお狭くなったということはいはれしいことでございます。こうした流れを止めないように、これからも長期的な視野でまた検討してまいりたいと思います。

最後に今後の重点施策でございますけれども、現状のPRということでございます。悪事千里を走るということがございますけれども、なかなか悪い評判というのは一端に広がりますけれども、いい評判というのはなかなか広がらないわけでございます。今、子育てはこうじゃないかというようなお話がありましたけれども、そいじゃ村の福祉バスはどうかという無料でやっております。

それから地域要望、これはほとんど特別な問題がない限り地域要望には応えております。

それから若者になんとしても来ていただきたいということでございまして、福祉事業、文化施設、それから教育施設、この面においては、この近辺では相当ハイレベルなものになったと思います。それでなければ下條村へは人は来てくれません。

よく視察にまいる方が申します。最初のあいさつの時に「どうやったら子供が生まれるようになるか、どうやったら人口が増えるか、どうやったら財政が良くなるか、要点を特に聞きにまいりました」なんていってあいさつするんですが、冗談はやめてくださいと。そんなにピンポイントでこれをやれば必ず良くなるなんていうことはあるとするならば、どこの町村も過疎化に悩んでおるわけではないわけでございますし、財政難に悩んでおるわけがないわけでございます。それは総合施策をして、皆さんが、村民の皆さんそれから国・県の大変な配慮もいただきながら、総合施策してボトムアップをして、世の若者が下條村というのはおもしろいなという目を向けて、交流の対象にさせていただくような地域にしなければいけない。そして交流する中で定着をしてもいいなというムードを作らなければできないわけございまして、これが大変なものでございます。

ただ住宅を造って駐車場2台で3万6千円ではばんばん人が来るかというところとそうでなくて、ただで作っても来ないところには来ないというのが現状でございますので、特にそういった面で、村民の皆さんと接するのは議員の皆さんでございます。そうして対話の中で「おいそんなもんじゃないよ、こんなもんじゃないよ」ということを皆さんの口からも語っていただきたいということと、今度は情報通信の面で相当額の金をかけます。そうしたら映像で送ることがこれは可能になるわけございまして、目で見て感じるということ

も大事なことでございますので、そんなことにも力を入れてまいりたいつもりでございます。

以上でございますけれども、宮嶋議員の質問にお答えさせていただきました。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問がありましたら。6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 冒頭のあいさつの中の出馬表明というのは後からということで、強い決意をお聞きしたいと思っております。

1つ、中学校の学力向上の中で、私の方から教員増をしたらいいかと、どうだという質問をさせていただきました。その件についてお答え願いたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 大事な答弁漏れがありました。確かに一時的に中学生の生徒は減ります。

そうすると当然今までの教員が減らされるわけでございますので、これは村費で教員を雇用します。

このルートとしては県教委ともよく相談して、「金は下條村で出しますよ、だから優秀なのを回してください」ということでやるわけでございまして、私どもは教育というのは非常に重視をしておるわけでございまして、そのことで答弁漏れがあったことをお詫びすると同時に、前段で私に対しての高い評価をいただいたことにも感謝申し上げ、答弁漏れをお許し願いたいと思います。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、いいですか。